

広島経済大学経済学会
2003年度第3回研究集会〔2003年6月26日（木）〕報告要旨

e-Learning のすすめ

——WebClass を利用した本学における e-Learning プラットホーム——

高 石 哲 弥*

1. はじめに

近年の情報技術の発展は目覚ましく、社会のさまざまな分野で情報化が進んでいる。特に、インターネットの家庭への普及は急速に進んでおり、携帯電話や PHS、PDA、ゲーム機などを含めた各種機器を利用したインターネット利用率ではすでに50%を超えている。このような社会状況の中で学校教育の情報化（e-Learning 化）を図ることも求められている。教育の情報化を図ることは授業形態の多様化につながる。例えば、往來は授業時間に教室でしか受講できなかったものが場所の制約を受けずにインターネット上で受講したり、テストや練習問題に自宅で好きな時間に解答するといったことが可能になる。

e-Learning 実施における問題点は、誰でもが気軽にすぐ e-Learning 授業を始められる訳ではないことである。e-Learning を行うシステムを自ら構築しようと思えばコンピュータに関するかなりの知識をようする。また、個々の教員が独自に取り組んだ場合、汎用性が必ずしもあるとは言えず、他の人が利用できないことも考えられる。

e-Learning を提供するシステムがあれば誰でもが簡単に e-Learning を始めることができる。ここでは e-Learning を提供するシステムである WebCT と本学に導入した WebClass の紹介を行う。

2. WebCT

WebCT (Web Course Tools) はカナダのプリティッシュコロンビア大学の

* 広島経済大学経済学部助教授

Goldberg 博士によって開発された。1995年より開発が始まり、日本語化は名古屋大学で1998年より行われている。日本語版の製品は名古屋大学から生まれたベンチャー企業のエミットジャパン社より2002年より販売されている。

WebCT の主な機能としては以下のものがあげられる。

- (1) コンテンツモジュールによる講義ノートの作成
- (2) 学生管理データベース
- (3) 学習状況に応じた教材提示
- (4) 電子掲示板・電子メール
- (5) チャット
- (6) 自己採点可能なクイズ出題
- (7) 課題レポートの出題・回収機能
- (8) 成績の保守および通知
- (9) コースカレンダー

3. WebClass

WebClass は WebClass 社によって開発、販売されている Linux をベースとした学校向け e-Learning システムである。システムに利用されているソフトウェアはすべてフリーソフトであるため安価に提供されている。表1は WebClass で利用されているフリーソフトの例である。

表1 WebClass で利用されているフリーソフト

OS	Linux
データベース	PostgreSQL
WWW サーバー	Apache
スクリプト言語	PHP
Word 文書変換	wvHtml
Latex 文書変換	latex2html

WebClass の主な機能としては以下のものがあげられる。

- (1) Word, PowerPoint 等のファイルから教材作成
- (2) 問題, アンケート作成
- (3) シナリオ作成
- (4) 成績の集計, レポート収集
- (5) 掲示板

(6) 学生データベース管理

これらの機能は e-Learning で必要な機能を備えているので、安価ではあるが WebCT と比べて遜色はない。WebClass のコンテンツ作成は、“過去の資産を最大限に利用する”ということコンセプトにおいており、過去に授業で利用した PowerPoint や Word, Excel 等のファイルがあればそれらを容易に取り込むことができる。

問題作成機能も充実しており、さまざまな形式の問題を出題することができる。例えば、テスト形式で1回しか解答できないものや、練習問題形式で何回でも解答できるものなどがある。解答は自動採点されるので学生は瞬時に自分の点数を知ることができる。出題に関しては更に細かい設定もでき、解答できる日時や、制限時間を設定することもできる。

WebClass には掲示板の機能がついているので、この機能は授業に関する質問や、連絡等に利用できるであろう。特にゼミ等での利用は効果的ではないかと思われる。

4. 本学への導入

当初、本学への導入は海外での人気の高い WebCT を考えていた。名古屋大学で WebCT の日本語版が開発されており、その製品版が2002年度にエミットジャパン社より発売されることになっており、ちょうど时期的よかったからである。しかし、設定された価格は最低のライセンスでも100万円を超えており、断念をせざるを得なくなった。そこで、安価な WebClass を導入することになった。WebClass の場合、1000人まで登録できるライセンスで30万円である。登録できる人数が上がるとライセンス料も上がる。現在、本学に導入してあるのは1000人までのライセンスである。

5. 今後の課題

WebClass は簡単な操作によって利用できるもので、慣れれば使いやすいと思うが、初めて利用する人にとってはどこから始めてよいか戸惑う場合もあると思われるので、講習会やユーザー会を開催して普及していく必要がある。

参 考 文 献

WebCT ホームページ <http://www.webct.com/>

WebClass ホームページ <http://www.webclass.jp>

日本語版 WebCT の非公式ホームページ <http://webct.media.nagoya-u.ac.jp/>

エミットジャパンホームページ <http://www.emit-japan.com/>